

関西蓄電池人材育成等コンソーシアムの活動方針2026

令和8年3月19日

関西蓄電池人材育成等コンソーシアム事務局

(近畿経済産業局・BAJ・BASC)

1. 関西蓄電池人材育成等コンソーシアムの概要

2. 令和7年度の活動概要

3. 令和8年度以降の活動方針

4. 令和7年度の主な取組

- 4-1. バッテリー教育の実施校拡大
- 4-2. バッテリー教育の他地域展開への支援
- 4-3. 教材の拡充への協力
- 4-4. バッテリー産業の機運醸成
- 4-5. コンソーシアム内の情報発信機能等の拡充
ー 参画機関の取組

1. 関西蓄電池人材育成等コンソーシアムの概要

関西蓄電池人材育成等コンソーシアムについて

- 令和4年8月31日に策定された蓄電池産業戦略（最終とりまとめ）で示された蓄電池人材育成目標（製造人材2.2万人、SC全体3万人）を踏まえ、蓄電池に係る人材の育成・確保のため、**蓄電池関連産業が集積する関西において、産学官による「関西蓄電池人材育成等コンソーシアム」を設立**（近畿経済産業局、(一社)電池工業会、(一社)電池サプライチェーン協議会が事務局）。
- コンソーシアムには、産業界、教育機関、自治体、支援機関等、50機関が参画。

- 令和4年度は、本会合3回、WG4回を開催し、人材育成の方向性について産学官で議論し、アクションプランをとりまとめ。
- 令和5年度は、本会合2回、検討会6回、座学デモ授業12回、実習デモ3回等の活動により、産学連携による教育コンテンツの具体化や教育プログラムの導入を準備。
- 令和6年度は、バッテリー分野初の産学連携による教育プログラムを本格的に開始。実施校の拡大に取り組んだほか、より専門的な教材の作成や機運醸成のための広報活動等を実施。
- 令和7年度は、前年度までに構築した教育プログラムのさらなる普及に向け、引き続き実施校の拡大やモデルケース創出を実施。また、新たに設立された全国団体と連携し、全国規模でのバッテリー教育の普及体制の強化に協力。また大阪・関西万博において広報活動を行うとともに、サプライチェーン強化のためのセミナー等を実施。
- 令和8年度以降は、人材育成については引き続き全国団体との連携を進め、全国規模での活動に協力するほか、サプライチェーン強化等の産業支援や広報活動を実施する予定。

関西蓄電池人材育成等コンソーシアムメンバー（令和8年3月19日時点）

■産業界

Panasonic ENERGY, prime planet energy & solutions, GSYUASA, Blue Energy, OSAKA SODA, HIOKI, HORIBA, SHIMADZU, 株式会社コベルコ科研, NISO 日総工業, NIKKEN TOTAL SOURCING, LIBTEC, 公益社団法人 関西経済連合会, JBRC, 社団法人 電池工業会 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN, BASC Battery Association for Supply Chain

■教育機関

国立大学法人 福井大学, 三重大学 MIE UNIVERSITY, 京都大学 KYOTO UNIVERSITY, KUAS 京都先端科学大学, 大阪大学 OSAKA UNIVERSITY, 大阪公立大学 Osaka Metropolitan University, 近畿大学 KINDAI UNIVERSITY, 兵庫県立大学 HYGOGO UNIVERSITY, 大阪公立大学工業高等専門学校, 神戸高専 Kobe City College of Technology, KOSEN 国立高等専門学校機構, NOKAIDAI 近畿圏未来力開発大学院

■自治体・支援機関

福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、姫路市、ぎんごころ 北摂市立生涯学習推進センター, 独立行政法人 労働者雇用支援機構 大阪支所, 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構, 産総研, NEDO nite JET, 文部科学省, 経済産業省 事務局：近畿経済産業局、BAJ、BASC ※メンバーは今後追加の可能性あり

【参考】バッテリー人材育成・確保のプログラムの基本的な方向性

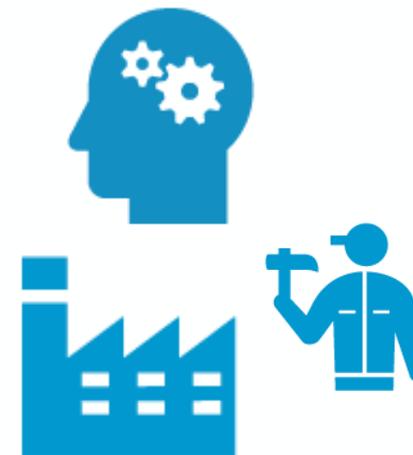
対象となる人材の意思決定プロセスを3つのステップに区分

- STEP 1 : バッテリーについて、学びながら、興味・関心を持つ。
- STEP 2 : バッテリーについて、専門的に学ぶ。
※対象となる人材像（技能系、技術系）によって学ぶべき内容は左右される。
- STEP 3 : バッテリー関連業界で、働きたいと思い、就活をする

学びながら、
興味・関心を持つ

専門的に
学ぶ

働きたいと思
い就活をする



【参考】バッテリー教育プログラムの全体像

	主な対象・目的	コンテンツ	具体的な項目例	実施方法
座学	【STEP1】 高校・高専の全学年 興味関心を持つ	50分×4コマ相当 ・テキスト教材（全4章・約100ページ） ・動画教材 ・指導書 ・ワークシート ・参考動画リンク集 ・実験集 ※実習内容を含む	・SDGsやカーボンニュートラルに対するバッテリーの役割・貢献 ・バッテリーの基礎知識、社会における活用事例、技術の進化 ・バッテリーの製造工程	学校で、教員または産業界からの派遣講師が指導
座学	【STEP2】 高専・大学 専門的に学ぶ	90分×12テーマ相当 ・テキスト教材（全12テーマ、約500ページ） ・実験集 ※実習内容を含む	・化学・物質系の授業への導入を想定した「LiB正負極反応」「粉体流動性と安息角」等 ・機械系を想定した「材料強度」「応力とひずみ」 ・電気・制御系を想定した「安全性（過充電・過放電）」「電力変換」等	学校で、教員または産業界からの派遣講師が指導
実習	【STEP1】 高校・高専・指導教員 興味関心を持つ	半日～1日程度 ・小型電池製造実習（Cコース）	・自ら手を動かして、小型のリチウムイオン電池を作製する実習体験	産総研関西センター（大阪府池田市）で、産総研スタッフが指導
実習	【STEP2】 高専・大学 専門的に学ぶ	10日程度 ・電池製造実習・座学（Aコース）	・電池製造設備を使って1Ah級のラミネート型リチウムイオン電池を試作する実習 ・電池材料や各種部材、一連の電池製造工程や装置、検査方法を学ぶ	産総研関西センター（大阪府池田市）で、産総研スタッフが指導

2. 令和7年度の活動概要

令和7年度の活動概要①

- コンソーシアム参画機関によるバッテリー人材育成のための活動拡大とモデルケース創出に向けた取組を推進するとともに、産業界主導にて設立された全国団体の活動に協力。
- 具体的には、①バッテリー教育の実施校拡大、②バッテリー教育の他地域展開への支援、③教材の拡充への協力、④バッテリー産業の機運醸成、⑤コンソーシアム内の情報発信機能等の拡充を柱として取組を実施。

①バッテリー教育の実施校拡大

昨年度までに作成したSTEP1,2教材を用いた授業を実施する教育機関の拡大に向け、教員向け説明会を2回実施。また、各府県の校長会（実施：14回）や個別の学校等（訪問：15回）に対して説明を行ったほか、教員が授業を行う際の工夫点等を授業ナレッジとして引き続きとりまとめ。

②バッテリー教育の他地域展開への支援

10月に設立された人材育成のための全国団体（BATON）に対し、全国での人材育成を支援するため、これまで関西地域を中心に取り組んできたバッテリー人材育成のノウハウを共有。

③教材の拡充への協力

STEP2教材に頻出する専門用語への理解を助けるため、産学官で連携し、STEP2教材の専門用語を解説する「用語集」を経済産業省事業により作成。

④バッテリー産業の機運醸成

社会全体のバッテリー産業への関心を高めることを目的に、産業の裾野を広げるため、大阪・関西万博における若年層向けイベントや電池討論会でのジョブフェアの実施、参画機関等の取組を伝える広報コンテンツの連載を実施。
また、サプライチェーン強化のためのセミナーや、中小・ベンチャー企業向けにマッチングの機会を提供。

⑤コンソーシアム内の情報発信機能等の拡充

コンソ内の連携強化と人材育成取組の更なる活発化を図ることを目的に、参画機関の人材育成の取組の実施状況や全国団体の動向等について共有するためのメールマガジンを参画機関向けに2回発行。

令和7年度の活動概要②

活動方針	概要
①バッテリー教育の実施校拡大	<ul style="list-style-type: none"> • 教員向け説明会の開催 • 既存の研修会、個別の学校等への説明 • 授業ナレッジ集の作成・公表 • 産総研実習での交通費支援 • 新たなモデルケース創出に向けた検討
②バッテリー教育の他地域展開への支援	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリー先進人材普及ネットワーク（BATON）との連携
③教材の拡充への協力	<ul style="list-style-type: none"> • STEP2教材用語集作成への協力
④バッテリー産業の機運醸成	<p>【一般向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「関西バッテリーだより - DENCHY -」の記事公開 • 経済産業省こどもデー出展 • 若年層向けイベントの開催（大阪・関西万博出展） <p>【ビジネス向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次世代・革新型電池関連のベンチャー企業マッチング会の実施 • 蓄電池産業サプライチェーン強化セミナー実施 • BBC開催 • CEATEC出展 • 電池討論会での「Battery Job Fair」開催 • スキルセット活用への検討
⑤コンソーシアム内の情報発信機能等の拡充	<ul style="list-style-type: none"> • コンソーシアム内での情報発信 • 本会合開催

3. 令和8年度以降の活動方針

令和8年度以降の方向性

- 人材育成については、関西コンソの持つ経験やネットワークをBATONに共有しつつ、引き続きしっかりと連携し、全国での人材育成の取組の促進に協力。また、関西での産業集積を活かしたバッテリー産業支援のため、サプライチェーン強化や次世代電池、定置用蓄電池にかかる取組の検討・実施を行うほか、コンソーシアム参画機関の連携強化や機運醸成のための情報発信を引き続き実施。
- 具体的には、**①BATONとの連携によるバッテリー教育の普及、②バッテリー産業支援のための取組の検討・実施、③コンソーシアム参画機関の活動状況の共有・発信**を柱として取組を進める。

①BATONとの連携によるバッテリー教育の普及

サプライチェーンを含むバッテリー産業に携わる人材の育成のため、関西コンソとBATONとが連携し、令和7年度までに作成した教育プログラムを活用し、関西地域を中心に引き続き高校、高専、大学等の教育機関におけるバッテリー教育について普及促進

■取組例：教員向け説明会の開催、各府県教委との連携 学生向け業界研究会への出展 等

②バッテリー産業支援のための取組の検討・実施

サプライチェーンの強化や次世代電池、定置用蓄電池への対応について、現状把握と課題に対応した支援策の検討・実施

■取組例：企業向けセミナー、マッチング会の開催等の支援策の検討・実施、リサイクル・リユース等についての自治体勉強会の開催 等

③コンソーシアム参画機関の活動状況の共有・発信

参画機関の活動状況のコンソーシアム内での共有や対外的な広報活動による各参画機関の連携強化や機運醸成

■取組例：参画機関の活動等の広報やコンソ内共有 等

4. 令和7年度の主な取組

- 4-1. **バッテリー教育の実施校拡大**
- 4-2. バッテリー教育の他地域展開への支援
- 4-3. 教材の拡充への協力
- 4-4. バッテリー産業の機運醸成
- 4-5. コンソーシアム内の情報発信機能等の拡充
ー 参画機関の取組

高校・高専向け「バッテリー教育プログラム」に係る教員向け説明会 (近畿経済産業局・国立高等専門学校機構・産総研関西センター)

- 高校、高専の教員等に「バッテリー教育プログラム」の実施の検討を促すことを目的に、教員向け説明会をDay1、Day2の2日間開催。
Day1では**バッテリー教育プログラムの概要や産業界からの期待**について講演、**授業を実施した教員による事例共有や質疑応答**を実施。
Day2では学生が学ぶ**「小型電池製造実習」を実際に教員が体験**。
- 高校向け説明会では、全国から計43名（DAY1：リアル11名、オンライン13名、アーカイブ視聴6名、DAY2：13名）の教員等が参加。
アンケートでは、「**蓄電池産業の現状・課題に関する講義が参考になった**」という声があった。
- 高専向け説明会では、全国から計30名（DAY1：リアル16名、DAY2：14名）の教員が参加。
アンケートでは、「バッテリー教育プログラムへの理解について」→**92.8%が理解した**と回答（とても理解できた：57.1%、ほぼ理解できた：35.7%）。
- BATONと連携し、次年度も継続して実施する予定。

Day 1：高校向け説明会

日時：令和7年11月12日

場所：産総研・関経連うめきたサイト

※一部ハイブリッド&後日アーカイブ配信

Day 1：高専向け説明会

日時：令和7年12月2日

場所：産総研・関経連うめきたサイト

Day2：小型電池製造実習説明会

日時：令和7年12月3日

場所：産業技術総合研究所 関西センター

	概要
趣旨説明	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリー教育プログラムの概要 • 産業界講演
バッテリー授業実施結果の共有・質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリー教育プログラムを実施された先生方や企業派遣講師から、授業展開の工夫等の事例共有 • 質疑応答

	概要
趣旨説明	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリー教育プログラムの概要 • 産業界からの高専生への期待等
バッテリー授業実施結果の共有・質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリー教育プログラムを実施された先生から、授業展開の工夫等の事例共有 • COMPASS5.0蓄電池分野の説明 • 質疑応答
研究事例説明	<ul style="list-style-type: none"> • 産総研における電池研究等

	概要
概要説明	<ul style="list-style-type: none"> • 小型電池製造実習の概要
座学	<ul style="list-style-type: none"> • 電池基礎講座 • 実習概要説明 • 実習内容の振り返り
小型電池製造の実習体験・質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> • 参加者による小型電池製造実習の体験 • 質疑応答

全国工業高等学校長協会 夏季講習会 「リチウムイオン電池のリサイクルの現状と課題」 (近畿経済産業局)

- 令和7年8月5日、全国工業高等学校長協会が主催する夏季講習会において、「リチウムイオン電池のリサイクルの現状と課題」と題して、産業界との連携のもと、バッテリー業界の動向、リチウムイオン電池のリサイクルの現状・課題、さらには工業高校OB・OGとして活躍する若手職員の事例等を紹介。
- 全国の工業高校の教員計8名が参加。(フルオンライン)
- 令和8年度も継続して開催する予定。

概要

ご挨拶

蓄電池産業の現状

- 蓄電池産業の最新動向
- リチウムイオン電池のリサイクルの現状と課題
- バーチャル工場見学
- 工業高校OB・OGの活躍紹介
- 質疑応答

関西蓄電池人材育成等 コンソーシアム、 バッテリー教育プログラム について

- 関西蓄電池人材育成等コンソーシアム
- バッテリー教育プログラムの内容、活用例等
- 教材提供依頼書の提出方法
- 教員向け説明会

質疑応答・アンケート

全国工業高等学校長協会機関誌「工業教育」 紙面掲載(近畿経済産業局)

- 全国工業高等学校長協会の機関誌「工業教育」に3回紙面掲載。
 - ✓ 令和7年4月号
バッテリー業界で活躍する人財 ～教育現場への期待～
(BASC)
 - ✓ 令和7年7月号
関西から始まる蓄電池教育の挑戦 (近畿経済産業局)
 - ✓ 令和7年10月号
電池を知り、未来を創る (近畿経済産業局)

その他の取組(近畿経済産業局)

- 地域ごとに開催される教職員会議や研修会、専門分野別の研究会や個別学校の訪問の機会を通じて、バッテリー教育プログラムの周知広報活動を実施。

授業ナレッジ集（実施事例）の作成・公表（近畿経済産業局）

- STEP1,2教材を用いてバッテリー教育を実施した高校、高専の授業の概要について、実際に**実施された事例を示す授業ナレッジ集を作成。**
- 授業を行う教員等の参考資料として、**教材の使用箇所や使い方、時間配分、工夫点などについて示し、授業の具体的なイメージを提供。**
- 近畿局ホームページへの掲載のほか、教員向け説明会で紹介。

記載項目例

- 実施校名、学科、学年
- 授業名、コマ数
- テキスト教材の使用箇所
- バッテリー授業の日程と全体像
- 各コマ内の時間配分と内容、工夫点
- 担当教員のコメント



令和7年度授業ナレッジ集（実施事例）は[こちら](#)

掲載事例（学校名）

【高校】

大阪府立四條畷高等学校（作成中）
 関西大倉高等学校（作成中）
 兵庫県立兵庫工業高校（作成中）
 兵庫県立洲本実業高等学校

【高専】

石川工業高等専門学校
 大阪公立大学工業高等専門学校（作成中）
 奈良工業高等専門学校（作成中）

神戸市立科学技術高等学校における実施概要

- 令和6年5月30日～6月3日、電気情報工学科1年生（2クラス80名）を対象に、「電気回路1」において、全2コマで授業を実施。
- 電気情報工学科教諭が授業を担当。
- テキスト教材1章、2章、4章、ワーク（2章）、動画教材を使用
- 令和6年度中に小型電池製造実習へ参加予定。

【全体像】

5/30 ※詳細あり	テキスト教材（プロトタイプ版）を使用して、4章1,2節→1章の解説 <ul style="list-style-type: none"> 授業冒頭、スマホから電池を取り出し、身近なモノが電池で動いていることを印象付け 乾電池、複数サイズの鉛蓄電池実物を用意 高学年に向けての学習の広がりを示すため、電池を活用した課題研究の事例を紹介 SDGsに関する動画を視聴
5/31	テキスト教材（プロトタイプ版）を使用して、2章の解説→動画教材の解説 <ul style="list-style-type: none"> 3章の内容は動画教材を用いて紹介

【コマ目】
コマで授業を実施



将来の産業における蓄電池の重要性と、スクールカーである「未来志向型エンジニアの育成」がマッチすると感じた。電気回路を学ぶ単元において、蓄電池を身近に感じて理解を深めることで、今後の学習の発展に繋げたい。

10分	<ul style="list-style-type: none"> 日本は車のEV化が先行しているが、EV化の推進には蓄電池が重要な役割を担っていることを紹介。 主なリチウムイオン電池工場をプロットした地図（テキスト3編）で、学校が立地する淡路島近郊に電池工場が集積していることを確認し、バッテリーについて学ぶことの意義を伝える。
計50分 25分	テキスト教材1章 ワーク <ul style="list-style-type: none"> まずは思いっぴく身近な電池とその用途をタブレットで共有ファイルへ入力。入力状況は教室前方へ投影し、生徒の回答を誘導して紹介。 その後、同じ共有ファイルへのバッテリーの普及で世の中がどのように便利になったかを入力。教室を回り、手の止まっている生徒へ声掛けやヒントの提示を行う。
15分	テキスト教材1章の解説・まとめ <ul style="list-style-type: none"> 先生の体験談も交えながら、バッテリーの普及、性能向上で世の中が便利になってきていることを解説。 深淵から宇宙まで幅広い分野でバッテリーが活躍しており、近年では蓄電の観点でも重要な役割を担っていることを生徒に伝える。

(参考) 高校生・高専生向けバッテリー教育プログラム実施校一覧

- 関西蓄電池人材育成等コンソーシアムにおいて作成した「見る・聞く・触れる・知る・考える」の要素を備えた教材コンテンツを活用し、令和7年度時点で、**工業高校等24校、高専14校、大学2校、公共職業能力開発施設1校においてバッテリー教育を実施。**（実施校数は令和8年2月27日時点）
 ※バッテリー教育プログラム実施校：29校（令和6年度末時点）→**41校**（令和8年2月27日時点）

令和8年2月27日時点の実施校

※年度途中に実施校が増える可能性あり。

(高校)	滋賀県	滋賀県立八幡工業高等学校
	京都府	京都府立工業高等学校
大阪府	大阪府立四條畷高等学校	
	大阪府立東淀工業高等学校	
	大阪府立生野工業高等学校	
	関西大倉高等学校	
兵庫県	兵庫県立兵庫工業高等学校	
	兵庫県立姫路工業高等学校	
	兵庫県立飾磨工業高等学校	
	兵庫県立洲本実業高等学校	
	兵庫県立龍野北高等学校	
	神戸市立科学技術高等学校	
	彩星工科高等学校	

和歌山県	和歌山県立紀北工業高等学校
	和歌山県立和歌山工業高等学校
	和歌山県立箕島高等学校
	和歌山県立紀央館高等学校
	和歌山県立田辺工業高等学校
徳島県	徳島県立城南高等学校
	徳島県立徳島科学技術高等学校
	徳島県立富岡西高等学校
	徳島県立阿南光高等学校
	徳島県立脇町高等学校
	徳島県立つるぎ高等学校

(高専)	北海道	釧路工業高等専門学校
福島県	福島工業高等専門学校 (市事業「いわきEVアカデミー」にて実施)	
富山県	富山高等専門学校	
石川県	石川工業高等専門学校	
愛知県	豊田工業高等専門学校	
大阪府	大阪公立大学工業高等専門学校	
奈良県	奈良工業高等専門学校	
和歌山県	和歌山工業高等専門学校	
徳島県	阿南工業高等専門学校	
香川県	香川高等専門学校	
愛媛県	新居浜工業高等専門学校	
福岡県	北九州工業高等専門学校	
長崎県	佐世保工業高等専門学校	
熊本県	熊本高等専門学校	

(大学)	大阪府	近畿大学
徳島県	徳島大学	

(公共職業能力開発施設)

大阪府	大阪府立南大阪高等職業技術専門学校
-----	-------------------

高校・高専生向け小型電池製造実習（産総研関西センター）

- 比較的簡単な設備を使って小型のラミネート型リチウムイオン電池を作製する1日もしくは半日（最短3時間）の実習で、電池モノづくりを体験できる。電池とはどんなものか、自分の手で作ってみるとよく理解でき、興味も引き出せる。

※学校から産総研関西センターまでの交通費について、BASCより補助制度あり

- 高校生・高専生および教員が主な対象。

令和8年2月時点で

今年度学生500名以上の受講実績
（令和6年度と併せて累計800名以上。教員や公的機関等の受講者を含めると累計**1000名超**。）

教員説明会（11/12, 12/2開催@産総研うめきたサイト）

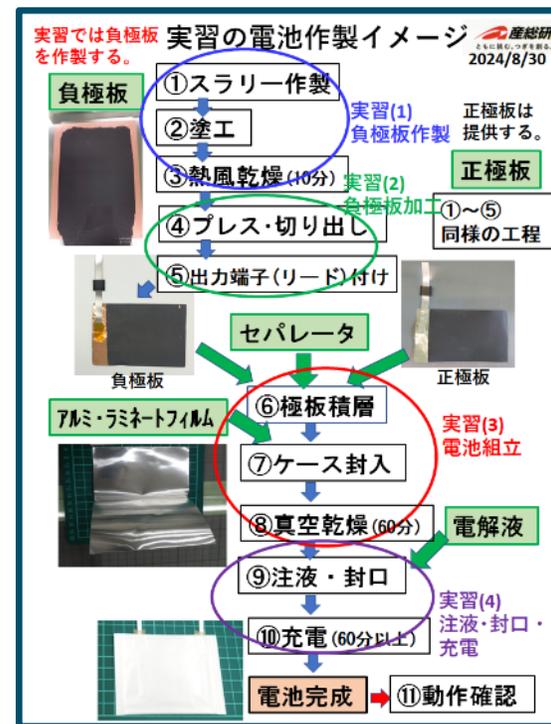
令和8年度は
年間700名の受講を目指す



最大45名で実施

高等職業技術専門学校も受講

小型電池製造実習の概要



実習内容	詳細	1日コース
概要説明	オリエンテーション	
座学1	電池基礎講座	9:30-10:15 (移動含む)
座学2	実習概要説明	
負極板作製工程	①スラリー作製	10:15-11:10 (休憩含む)
	②塗工	
	③熱風乾燥	
負極板加工工程	④プレス・切り出し	11:10-11:30
	⑤出力端子	
電池組立工程	⑥極板積層	11:30-11:45
	⑦ケース封入	
	⑧真空乾燥	
昼休み		11:45-12:45
注液・封口・充電工程	⑨注液・封口	12:45-13:20 (移動含む)
	⑩充電	
見学	実験設備の見学	13:20-14:40 (休憩含む)
動作確認	⑪動作確認	14:40-15:00 (移動含む)
座学3	実習内容の振り返り	15:00-15:30
アンケート	アンケート記入	

★製造工程順に作製する1日コース（上図）と、短縮版の半日コース。作業の待ち時間に産総研の見学も実施。

高専・大学・大学院生、企業人材向け電池製造実習 / 座学、卒論修論研究等 (産総研関西センター)

- 電池製造設備を使って電池を自ら試作することで電池モノづくりを理解でき、実習や講義で電池産業全般の知識が身につく研修。電池製造の基礎となる科学的な知識や概念も学べ、安全性試験機関の見学会等も実施。経験豊富な電池メーカーOB（産総研招聘研究員）の指導を少人数で受講できる充実した研修内容。
- 電池をより専門的・実践的に学びたい学生を受け入れ、産総研の電池試作・評価設備や分析装置を使って卒業研究等も実施。

令和8年2月時点

大学生他約60名の受け入れ実績（年度内に70名超予定）
企業人材の受け入れも開始



令和8年度は

テキスト改訂等内容のブラッシュアップと受講大学の拡大



電池試作設備を使った電池製造実習（ご協力:LIBTEC）と座学（電池製造概論講座）

※コンソーシアム参画機関と連携

基礎力養成講座



大学の先生方のご協力による、電池製造の基盤となる基礎科学の講座（オンライン動画視聴）

見学会



- NITE、JETのご協力により受講者向けの見学会を実施。
- 12名が参加し、蓄電池の安全性試験評価施設等を見学。

分析評価技術講習会



- 島津製作所のご協力により実施。
- 蓄電池の分析評価をさらに学びたい受講者5名が参加。
- 次年度日置電機での実施を準備。

兵庫県「カーボンニュートラルへの挑戦！～蓄電池業界を牽引するゲームチェンジャーの育成～」

現状

- 我が国に加え世界各国は、2050年前後のカーボンニュートラルの実現を国家目標として設定している。
- 脱炭素社会の実現に向けた取組は、気候変動対策だけでなく、新時代の経済成長の源泉となっている。
- 蓄電池は、脱炭素社会の社会インフラや経済安全保障の観点から重要な産業分野である。

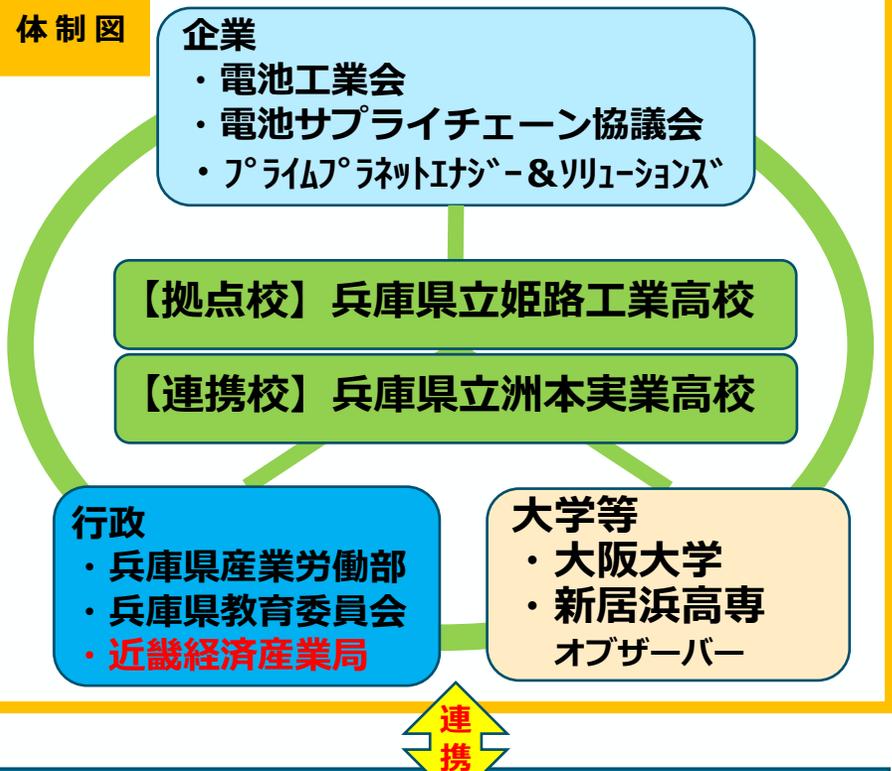
課題

- 工業高校で実施する教育プログラムが、学校を取り巻くステークホルダーのニーズに対応できていない。
- 短期的な産学連携に留まり、外部ソースの獲得が不足している。
- 蓄電池に関する教材の活用と成果の検証、専門知識を有する生徒および教員の育成が必要である。

目的

- カーボンニュートラル社会のキーテクノロジーである蓄電池技術を支える技術者を社会に輩出し、新たな価値を創造する人材の育成
- 「工業×環境」によりカーボンニュートラル社会の実現に取り組む企業との連携を支援
- 産業界、大学、高専、行政等が連携した教育プログラムの周知・広報

体制図



県立姫路工業高等学校（拠点校）の取組

座学 バッテリー人材育成テンプレート教材を活用した座学	実習 	工場見学 PPES株式会社姫路工場、兵庫日産日産京都自動車大学校講座等	小学生への講義 	探究学習 ビオトープの探究
---------------------------------------	---------------	---	--------------------	-------------------------

県立洲本実業高等学校（連携校）の取組

座学 	実習 産業技術総合研究所関西センターで小型電池製造実習	工場見学 	中学生向け出前授業 	探究学習 淡路島のカーボンニュートラルに向けた探究
---------------	---------------------------------------	-----------------	----------------------	-------------------------------------

成果発表会

今年度の取組成果

- 産学官で共同開発した教材の活用
- 教員のスキルアップ(座学、実習)
- 小・中学生向けの出前講座
- 電池関連企業へ就職

次年度に向けて

- 産学官で共同開発した教材活用の継続
- 実務家教員(企業、大学、高専)による特別授業の継続
- 蓄電池(バッテリー)を活用したカーボンニュートラルの研究
- 銀行や経済団体等(地元企業特化型)と連携した取組

バッテリー教育プログラムの実践（大阪公立大学工業高等専門学校）

- 本年度は、バッテリー人材育成プログラムを学内カリキュラムと連動させる形で体系化し、全学科において育成すべき人材像や対応科目の整理を行い、教育プログラムを実施。
- また、1年生全員を対象に「バッテリー産業講演」を実施するとともに、2年生については全コースを対象に「リサイクル講演」を実施。

令和5,6年度取組

- STEP1教材作成、デモ授業の実施（1年生1クラス対象 40名 科目：化学1）。
- STEP2教材検討WGへ参加。バッテリー関連外部機関への見学会 ⇒ パナソニック エナジー(株)、(株)ジーエス・ユアサコーポレーション、産総研関西センター、製品評価技術基盤機構

令和7年度取組

- STEP1教材利用（1年生 化学1）、総合課題実習2（於：産総研関西センター 小型電池製造実習）
- STEP2 リサイクル（2年生 化学2）、過充電・過放電（2年生 工学基礎実習）、応力とひずみ・材料強度（3年生 材料力学入門）
- 卒業研究（於：産総研関西センター）、バッテリー関連外部機関への見学会（2年生希望者）
- 学内教育プログラムイベント実施（STEP1対応 3年生）： キャリアパス紹介セミナー、希望者対象LIB組立実習（於：パナソニック エナジー(株)）

令和8年度取組予定

- バッテリー人材育成に係る教育プログラム実施（FIT&GAP）
- 関西コンソと連携した企業説明会の検討



企業見学会



LIB組立実習（2025年9月）



理工学部「バッテリー人材育成プログラム」(近畿大学)

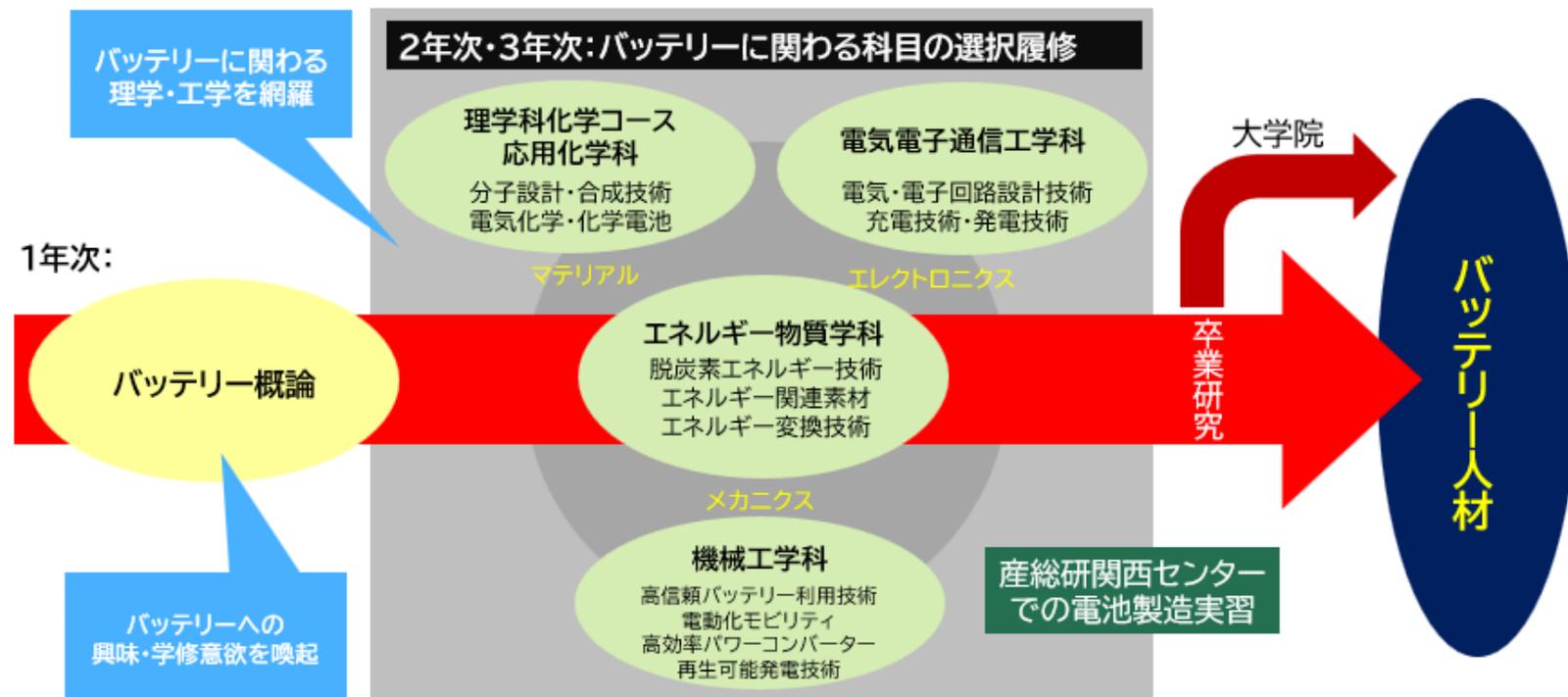
- 趣旨** バッテリー人材を「エネルギー・マテリアル・エレクトロニクス・メカニクスの4分野を自在に横断することができる人材」ととらえ、そのような人材を輩出するための学科横断型プログラムを策定。
- プログラムの概要** 1年次の「バッテリー概論」を入り口に、本プログラムの指定する自学科科目および他学科科目を選択履修することで、上記4分野に関する素養を身につける。また、実習科目(産総研関西センターと連携)を通じて電池製造技術を実践的に学び、バッテリー産業への興味を喚起する。

今年度の取組概要

- プログラムを開始。さまざまな学科・学年から12人が参加。「バッテリー概論」を受講するとともに、4領域にわたる科目を選択履修。

来年度以降の予定

- 引き続き、産総研関西センターのご協力により「バッテリー製造実習」を開講。
- 受講生どうしの交流を促進。



電池人材育成プログラム（パナソニック エナジー×大阪公立大学）

- パナソニック エナジーは、大阪公立大学中百舌鳥キャンパス内に文部科学省の補助金を活用して建設されたイノベーションアカデミースマートエネルギー棟に令和7年4月より入居し、蓄電池分野にかかる独自の人材育成プログラムを提供。
- プログラムは、大阪公立大学の学生を対象に、座学や実習で構成。
- 電池メーカーが大学構内のラボに入居し専門的な人材育成プログラムを提供するという点で国内でも先進的な取組。

電池人材育成プログラム概要〔9/24-25の2日間で開催〕

講座名	概要	新規作成
電池概論Ⅰ	歴史、原理、種類、LIBの性能・材料	
電池概論Ⅱ	乾電池・Li一次電池・NiMH、リサイクル	○
電池設計(LIBセル機構・電池制御)	安全な電池使用のため多重保護機能	
電池生産技術(設備動作体験含)	企業競争力を左右する電池生産設備	○
乾電池組立実習	乾電池の構造とプロセスを理解	○
LIB組立実習	円筒形LIBの製造プロセスの概要を理解	○

当日の様子



総括

- 座学と実習を組み合わせたことで、学生は電池技術への理解を深めるとともに高い達成感を得る機会となった。参加後アンケートでは5点満点中4.7点（全講座平均）と高い評価を獲得。
- 参加者の約7割が電気化学系学生で、今後は電気/機械/情報系学生への展開を進め、多様な人材育成を目指す。 22

4. 令和7年度の主な取組

- 4-1. バッテリー教育の実施校拡大
- 4-2. **バッテリー教育の他地域展開への支援**
- 4-3. 教材の拡充への協力
- 4-4. バッテリー産業の機運醸成
- 4-5. コンソーシアム内の情報発信機能等の拡充
ー 参画機関の取組

バッテリー教育プログラムの全国組織の立ち上げ

- 電池サプライチェーン協議会、電池工業会が事務局となり、産業界主導で10月に「バッテリー先進人材普及ネットワーク（BATON）」を立ち上げ。
- 今後、関西蓄電池人材育成等コンソーシアムで培ったモデルケースを全国の高校、高専や大学に拡大していく予定。

<p>名称</p>	<p>バッテリー先進人材普及ネットワーク Battery Advanced Talent Outreach Network (BATON) <small>BATON（バトン）には「次世代につなぐ」という意味も込められています。</small></p>
<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 産官学が連携し多様な学びの機会を展開することを通じて人材育成に貢献し、日本の蓄電池及び関連産業の競争力強化とカーボンニュートラルな未来を次世代につなぐことを目的とする。
<p>事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> バッテリー教育プログラムの共同開発 バッテリー教育プログラムの普及・発信 産官学連携を通じた産学相互の人材育成 その他、本コンソーシアムの目的を達成するために必要な事業
<p>事業計画</p>	<p>○高校・高専等における教育プログラムの実施校の拡大 関西蓄電池人材育成等コンソーシアム（以下「関西コンソ」）において作成したバッテリー教育プログラムの実施校を拡大するため、関西コンソ及び地方自治体と協力し教員向け説明会の開催等の普及活動を行う。</p> <p>○教育プログラムの利活用促進 関西コンソと連携した授業ナレッジ集の作成、広報活動を行う。教育プログラム活用の好事例を委員会で情報共有し活用の促進を図る。また、さらなる利活用促進策の検討を行う。（教育プログラムの試し読みを可能とする等）</p> <p>○大学でのバッテリー教育の実施 大学でのバッテリー教育講座の実施校を拡げるため各大学講義の企画、運営を行う（企業講師による授業実施等）。</p> <p>○産学相互の人材育成事業の検討 25年度の会員アンケート、会合での意見を元にした、BATON活動全般に関する検討を行う。</p>

4. 令和7年度の主な取組

- 4-1. バッテリー教育の実施校拡大
- 4-2. バッテリー教育の他地域展開への支援
- 4-3. **教材の拡充への協力**
- 4-4. バッテリー産業の機運醸成
- 4-5. コンソーシアム内の情報発信機能等の拡充
— 参画機関の取組

各専門分野の教材用語集の作成・提供

- 専門分野の教材には、蓄電池業界の専門用語が含まれており、教師や学生の理解を妨げる要因。
- そこでバッテリー教育プログラムの導入校拡大を目指し、専門用語の意味を解説した用語集を作成。

各専門分野の教材

No.	分野	テーマ
1	共通	リサイクル
2		全固体電池
3		ラミネート電池
4	化学・物質 (材料)	LIB正負極反応
5		粉体流動性と安息角
6		安全性
7		分析
8	機械	材料強度
9		応力とひずみ
10	電気・制御	安全性 (過充電・過放電)
11		電力変換
12		エネルギー密度

教育用語集 (約200用語を掲載)

- レート特性
- リチウムイオン電池の劣化
- C (Cレート)
- 劣化抑制
- 充放電制御
- LIBの電圧 (高電圧)
- ポリオレフィン微多孔膜

<教育用語集イメージ>

レート特性

定義
放電を停止する電池電圧に到るまでに取り出せる容量が、電流の大きさにより変化する特性
電池内部抵抗の影響を受け、レート（電流値）が大きいほど放電可能容量は減少する

○放電電流毎の電池電圧と放電時間の関係

- ✓ 電池作動電圧は、無通電時の電圧（理論起電力）から、放電を開始すると、電池内部抵抗と電流値の大きさに比例して降下する
- ✓ 電池作動電圧E[V] = 理論起電圧E0[V] - 内部抵抗r[Ω] × 電流値I[A]
- ✓ 作動電圧の降下量が大きくなると、放電終了電圧への到達が早くなり、放電可能容量が減少する
- ✓ 低温環境、あるいは劣化が進行して内部抵抗が上昇すると、同じ放電電流値であっても、放電可能容量は減少する
- ✓ 充電側も同様の挙動がある

【関連用語】 C (Cレート)

出典：STEP 2教材 安全性

リチウムイオン電池の劣化

定義
リチウムイオン電池は可逆的に充放電を繰り返すことができるが、化学反応であるために望ましくない副反応を伴って、構成要素の状態変化が生じる
⇒ 状態変化が進行して、電池性能/信頼性が 初期から低下した状態を **劣化** という

TOPIC 電池性能面の劣化

内部インピーダンスの増加により充放電中の分極が大きくなると充放電を停止する電圧への到達が早くなり、取り出せる容量が減少する

内部インピーダンス成分の劣化要因	
R1:電気抵抗 (構成材料の抵抗)	正負極活性物質の集電材から剥離による接触抵抗の増加
R2:電荷移動反応抵抗 (活性物質中の抵抗)	不活性なSEI被膜の厚体化による抵抗成分の増加 正極結晶構造の不安定化による反応領域の減少
R3:拡散抵抗 (電解液抵抗)	SEI, CEI形成に伴い電解液が分解消費され、リオンが減少 液分解生成物がセルレーク目詰りを起こし抵抗成分が増加 高温・高充電状態でセルレークが酸化腐食して抵抗が増加

※内部インピーダンス参照

TOPIC 信頼性・安全性の低下

電解液の分解に伴い発生するガスによって電池が膨張し、正負極のスリを起すこと、内部短絡や発火につながる恐れがある

LIB充放電電圧域	セル内ガスの発生について
通常充放電電圧域	徐々に電解液が分解し、酸化水素(HC)が発生
過充電電圧域	正極活性物質分解による酸素、電解液酸化分解による二酸化炭素が発生
過放電電圧域	電解液還元分解による多量・多量の酸化水素ガスを発生

【関連用語】 レート特性、劣化抑制

出典：STEP 2教材 LIB正負極反応

高専発！「Society 5.0型未来技術人材」育成事業（COMPASS 5.0）蓄電池分野 （国立高等専門学校機構）

■ 令和7年度の実績

- ・BATONに加盟（10/14）



- ・用語集作成に協力

教育的知見に基づいた掲載語句の選定
利用者の視点に立った実効的な助言を行った

- ・COMPASS5.0サマースクールを開催

8/25 蓄電池分野サマースクール（新居浜高専）

受講：高専生22名、高専教員9名

9/5 蓄電池分野の講義を実施（熊本高専）

講師：BASC（トヨタバッテリー(株)）

受講：高専生13名



- ・COMPASS5.0蓄電池分野教員向け研修会の実施

12/2 STEP1,2教材説明会（産総研うめきたサイト）

12/3 小型電池製造実習（産総研関西センター）

参加：高専教員16名



- ・各種学会の教育セッションにてSTEP1,2教材の紹介

- ・STEP2教材活用授業見学会の実施

7/15 授業見学会（石川高専）

対象：石川高専電気工学科4年生43名

参加：経済産業省、近畿経済産業局、

BAJ、BASC、関連企業等



- ・STEP1,2教材の展開（申込数2月現在21高専）

■ 令和8年度以降の取組予定

- ・STEP1,2教材、用語集を全国高専へ展開
- ・BATONをはじめとする産学官連携活動
- ・COMPASS5.0サマースクールの実施
- ・異分野との連携
（半導体、再生可能エネルギー、サイバーセキュリティ、IoT）

■ コンソ活動への意気込み

- ・教育コンテンツの充実化と全国高専への展開を図る

参考：<https://kc-batt.ishikawa-nct.ac.jp/>

【参考】STEP1/STEP2教材の企業への提供状況

- STEP1教材は、電池メーカー、電池材料メーカー、設備メーカー、自動車関連企業等、蓄電池関連の企業での新規採用・キャリア採用人材向けのバッテリーの基礎教育の新人研修等、人材育成において活用されている。
- STEP2教材は、上記企業の中堅エンジニアなど専門技術分野を学ぶ為の人材育成において活用されている。
- 教材提供依頼があった計56社の企業に対し、STEP1/STEP2教材を提供。

【使用目的】

- STEP1
- 新規採用・キャリア採用人材・他部署からの異動者向け研修
 - 電池保全業務に携わる人材向け研修
 - バッテリーに関心がある社員、営業部門向け勉強会
- STEP2
- 電池メーカー内のバッテリーエンジニア育成用
 - 電池材料開発部門のエンジニア育成用

【研修・勉強会での活用例 等】

- STEP1
- 新入社員向け等、社内バッテリー基礎教育の一環として活用
 - 社内の業界別スキル認定試験への盛り込みも予定
 - 1～3時間程の時間枠で使用でき、活用し易いボリューム教材
- STEP2
- バッテリーの基礎の再確認から応用までの教育用に活用
 - 材料開発に向けた高度知識獲得

【STEP1/STEP2教材 提供先 企業数】

業界名	企業数
電池メーカー	17社
電池部材・素材メーカー	11社
電池設備メーカー	6社
計測器メーカー	4社
自動車関連企業	3社
車以外機器メーカー	1社
公益法人・団体・官公庁	3社
他（物流、人材派遣等）	11社
計	56社

4. 令和7年度の主な取組

- 4-1. バッテリー教育の実施校拡大
- 4-2. バッテリー教育の他地域展開への支援
- 4-3. 教材の拡充への協力
- 4-4. バッテリー産業の機運醸成**
- 4-5. コンソーシアム内の情報発信機能等の拡充
— 参画機関の取組

「関西バッテリーだより - DENCHY -」 (近畿経済産業局)

- 今後脱炭素社会の進展とともに更なる成長が見込まれるバッテリー産業について、未来を担う若い世代を含め多くの方にその魅力を“やわらかく”お伝えすることを目指した広報誌「関西バッテリーだより -DENCHY-」を昨年度より発行。
- 以下「バッテリー産業の未来」「産業界インタビュー」「授業レポート」「イベントレポート」の4シリーズで記事を展開。**今年度は第8号から第14号の合計7件の記事を発信。**

	バッテリー産業の未来	産業界インタビュー	授業レポート	イベントレポート
ターゲット	世間一般	学生・求職者	教育関係者	世間一般
メッセージ内容	<p>バッテリーの認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> バッテリー産業の現状や魅力について発信 教材制作秘話等、関西蓄電池人材育成等コンソーシアム活動内容の紹介 	<p>就職イメージの具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> バッテリー関係の事業内容や、若手社員の声などを紹介することで、就職イメージを具体化 	<p>授業イメージの具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の実況レポート 授業の工夫や、学生の変化など先生のコメント 授業の面白さなど、学生のコメント 	<p>バッテリー産業への興味喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> バッテリー関連イベントの様相を紹介
記事の例	<p>創刊号：いま、バッテリー産業がアツい。</p> <p>第2号：関西蓄電池人材育成等コンソーシアム 事務局対談 ～前編～</p> <p>第3号：関西蓄電池人材育成等コンソーシアム 事務局対談 ～後編～</p>	<p>第10号：深海から宇宙まで。バッテリーの革新と成長 (株式会社GSユアサ)</p> <p>第11号：社会変革の波に、バッテリーで挑む (パナソニック エナジー株式会社)</p> <p>第12号：高性能・高品質のバッテリーづくり にかける情熱 (プライムプラネット エナジー&ソリューションズ株式会社)</p>	<p>第4号：未来志向型エンジニアの育成を目指して -神戸市立科学技術高等学校-</p> <p>第6号：“ホンモノ”に触れることをきっかけに 将来に繋がる学びを伝えたい～ -兵庫県立姫路工業高等学校-</p> <p>第7号：技術者としての誇りを育むバッテリー教育プログラム -兵庫県立洲本実業高等学校-</p>	<p>第5号：こども霞が関見学デー・CEATEC2024</p> <p>第8号：STEP2教材完成お披露目イベント</p> <p>第9号：高専スプリングスクールin新居浜高専</p> <p>第13号：企業訪問 (京都府立南陽高等学校附属中学校 inGSユアサ)</p> <p>第14号：電池人材育成プログラム (大阪公立大学×パナソニック エナジー)</p>

note版



PDF版

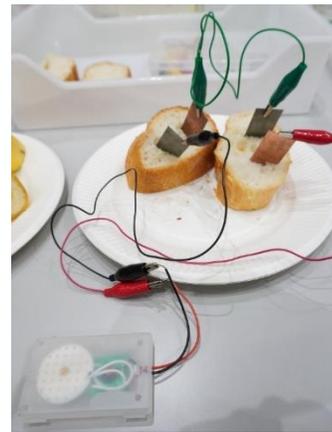


こども霞が関見学デー 経済産業省こどもデーに

「① 電池エネルギー体験教室」「② 手作り乾電池教室」を出展 (BAJ)

- 小学生をメインターゲットとして、参加者にバッテリーの面白さを伝えることを目的に、2025年8月6日(水)~7日(木)の2日間、経済産業省こどもデーにおいて「電池エネルギー体験教室」「手作り乾電池教室」を開催。経済産業省こどもデー 全体来場者数：4,172人の内、計421人の方が参加。
- ①「電池エネルギー体験教室」では、パンやバナナの様な身近なものをを用いて電池作りを体験。
(銅片/亜鉛片を使い、電子オルゴールを鳴らす体験)
こどもたちからは「パンが電池になるなんて 不思議！」との声が響き、笑顔がこぼれる場面が多く有り。
- ②「手作り乾電池教室」では、本物の乾電池とほぼ同じ材料・部品を使用し「世界に一つだけのオリジナル」の乾電池を作製。自身で作った乾電池で豆電球が点灯すると、“点いた点いた やったー”と、歓声が上がっていた。
- BAJは令和8年度も引き続き、経済産業省こどもデーに出展予定。

① 電池エネルギー体験教室の様子



② 手作り乾電池教室の様子



大阪・関西万博への出展（経済産業省、徳島県、BAJ、JBRC、近畿経済産業局）

- 令和7年10月8日～10日の3日間、大阪・関西万博の関西パビリオン「多目的エリア」の徳島県催事にて、蓄電池に関する若年層向けの体験型イベントを実施。
- 10月8日は「電池エネルギー体験教室」、10月9日、10日は「電池クイズ」、10月10日はエアロバイクを用いた小学生～高校生による「発電グランプリ」を開催。
- 若年層を含む約2,100名の幅広い年齢層の方々が参加。

電池エネルギー体験教室（BAJ協力）

- バッテリーに対する興味・関心を引き出すきっかけを提供
- フランスパン、鳴門金時やすだちゼリーなど徳島県ならではの食材が電池として機能する仕組みを実演



電池エネルギー体験教室

電池クイズ（JBRC協力）

- 電池の基礎知識やリサイクルの重要性を楽しみながら学ぶ
- クイズに答えながら敵キャラクターを倒すタブレットでのゲームや、ステージでの○×クイズを実施



電池クイズ

アンケート結果

- 蓄電池への興味関心についてイベント前後で79.5%→96.9%
- 関西地域における蓄電池産業の集積への認知についてイベント前後で32.1%→93.9%



発電グランプリ

若年層向けの取組（GSユアサ）

- 令和7年7月30日（水）、京都府立南陽高等学校附属中学校の探究学習の一環として、同校の生徒9名の企業訪問を受け入れ。
- リチウムイオン電池（LIB）の基礎講義、電池の安全性とPSEマークの解説、乾電池制作実習を実施し、蓄電池の役割・用途やリチウムイオン電池の性質などについて学ぶ機会を提供。

当日のプログラム概要

会社紹介	GSユアサの成り立ち、自社製品等の紹介
事前学習	リチウムイオン電池に関する講義
会社見学	社内の見学
電池制作	単1形マンガン乾電池の制作実習

参加教員の声

- 企業の取組を現場の社員さんから直接学ぶことができ、子ども達のキャリア形成に繋がる大変貴重な機会となった

当日の様子



【参考】

令和6年度「次世代・革新型電池関連技術に取り組む近畿圏の中小・ベンチャー企業（企業事例集）」
（近畿経済産業局）

- 未来のバッテリー産業を想像させるものとして、次世代・革新型電池関連技術に取り組む中小・ベンチャー企業を紹介するとともに、様々な物質や原理を用いた蓄電池およびその周辺技術について紹介する事例集を作成。
- 特に、未来の技術者たる学生が、次世代・革新型電池に関する研究開発事例を知ることによって、自身がバッテリー産業で活躍するイメージを膨らませることを期待。

【概要】

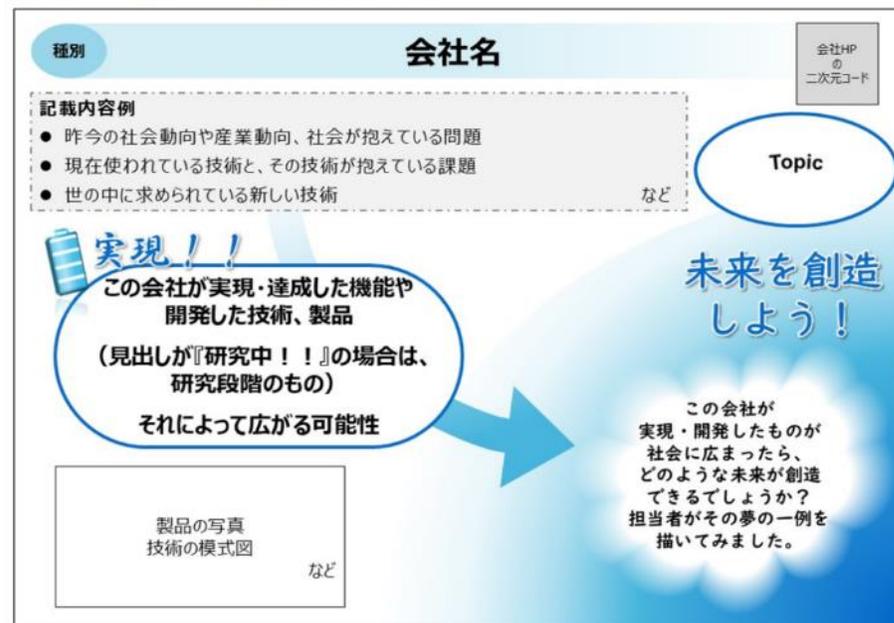
次世代・革新型電池関連技術に取り組む近畿圏の中小・ベンチャー企業に対して実施したヒアリングの結果（令和6年度実施）を基に、各社の技術と、その社会実装から想像される未来とを事例集としてまとめた。

【資料構成】

『企業マップ』、『用途先別、求められる蓄電池のタイプ』、
『企業事例』、『掲載企業一覧表』

中小・ベンチャー企業事例集 掲載内容 フォーマット

●電池の機構・種類 ●部材 ●検査・評価技術/リユース



大阪産業技術研究所「電池WG」との連携（近畿経済産業局）

- 令和7年10月3日（金）、令和8年1月21日（水）の2日間、次世代・革新型電池関連技術に取り組む中小・ベンチャー企業の情報発信を強化するとともに、電池WGとの連携を通じて企業間マッチングの機会を創出し、蓄電池関連産業のサプライチェーン強化を図った。
- 「多くの企業と交流できた」との声が寄せられ、登壇企業と電池WG参加企業の具体的な連携も確認された。

※電池WG：電池関連企業・大学・行政が集まり、情報共有や交流会・電池業界マップ作成/発信、展示会出展などを通じて業界連携と活性化を図るためのプラットフォーム

企業プレゼン（10分/社）+ポスターセッション

	種別	社名	事業概要
第9回電池WG R7.10.3（金）	電池開発（電解質）	アイ・エレクトロライト	リチウムイオン電池に関する材料、電池等の評価・コンサルティング業務や小ロットの電極、材料、及びイオン液体電池の販売
	電池開発（機構）	CONNEXX SYSTEMS	次世代型発蓄電システムの開発、製造、販売、企画、設計、システム・インテグレーション
	電池開発（機構）	三谷電池	活性炭電極と塩水電解液を用いた蓄電技術『水系電気二重層キャパシタ』の開発
	電池開発（機構）	グエラテクノロジー	自社開発した新技術（酸化物半導体の光励起構造変化）を応用して、蓄電デバイスの開発を行っている
第10回電池WG R8.1.21（水）	部材（電極箔）	帝国イオン	硬質クロム・無電解ニッケルめっき加工を主事業としており、独自技術を用いた機能めっきの提供により実績を積んでいる
	部材（電極材）	アイエムセップ	日本で唯一の熔融塩電解技術専門ベンチャー。熔融塩電気化学プロセスをコア技術とした研究開発を行う
	検査・評価	IGS	電磁場の逆解析理論、散乱場の逆解析理論を基礎とした、各種計測システムの開発、製造販売
	検査・評価	ゴイク電池	電池診断装置の開発・案内、電池・マネジメント・システム（BMS）の開発・販売 急速充電地の開発・販売、電池応用技術の開発・販売

当日の様子



「蓄電池産業サプライチェーン強化セミナー」の開催 (経済産業省、近畿経済産業局、BASC)

- 令和8年2月20日（金）、蓄電池産業戦略に定める数値目標、国内150GWh/年、グローバルシェア2割の製造能力確保に向けて、バッテリー産業への新規参入・事業拡大を促進するため、蓄電池産業政策の動向や蓄電池製造設備の課題等をレクチャーする企業向けセミナーを開催。

■ 趣旨・概要

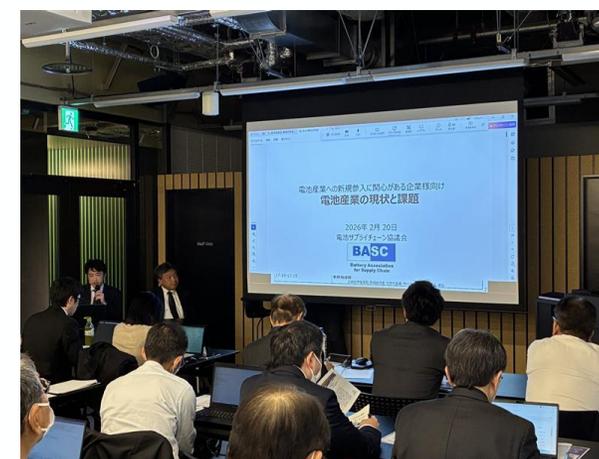
- 部素材メーカー、製造装置メーカー等を対象に、バッテリー産業への新規参入、事業拡大を促進することを目的とする企業向けセミナーを開催。 52機関から70名が参加。

■ プログラム内容

- 経済産業省 電池産業課：蓄電池産業政策の動向
- BASC：蓄電池産業の現状と課題、蓄電池製造設備解説、BBC（BASC Battery College）の紹介
- 企業登壇：蓄電池産業への事業拡大の事例紹介

■ 参加者アンケート（n=31）

- セミナー全体の満足度：93.5%、新規参入・事業拡大への検討に役立った：83.9%
- 市場動向の変化や予測等を踏まえて、国の支援・製造装置産業の今後の状況をよく理解できた。
- 政策動向および業界課題を体系的に把握することができ、設備投資判断や今後の事業戦略立案に直結する有益な知見を得ることができた。



バッテリー産業への新規参入支援「BASC Battery College」(BASC)

- 蓄電池産業界への新規参入を検討する企業向けに、電池サプライチェーン協議会(BASC)主催の電池セミナーを主要都市で実施。最新ビジネス動向や競合他社分析、今現場で求められる部材/設備ニーズ等を解説。
- 令和5年度から継続的に実施し、令和6年度は京都(7月)と東京(2月)の2都市にて実施。
- 令和7年度も2都市開催(5/27-28@大阪、令和8年2月25日@東京)

累計で**232社(303名)**が参加

■ 開催実績

開催場所	開催日時	参加者数	備考
大阪	令和5年6月13-14日	27社42名	※5/19にコンソ、中小機構近畿本部、ASTEMの協力のもとプレセミナーを開催
東京	令和5年9月12-13日	25社34名	
福岡	令和5年12月19-20日	18社27名	※11/28に九州経済産業局と共催でプレセミナーを開催
愛知	令和6年2月15-16日	41社50名	
京都	令和6年7月22日-23日	32社45名	
東京	令和7年2月18日-19日	36社41名	
大阪	令和7年5月27日-28日	27社31名	
東京	令和8年2月25日	26社33名	

■ 開催の様子



■ 参加者の声(一部)

- 電池業界のことを全く知らない中で参加したが、講義が非常にわかりやすく、業界が求める技術や課題、懸念等が理解できた。また、講師の方々からAll Japanで戦っているという強い志を感じることができた。

CEATECブース出展（BASC）

- 電池業界プレゼンス向上を狙い、CEATEC（令和7年10月14日～17日）にBASCとして出展。
- 協賛企業（70社）と共に、電池が脱炭素社会実現の鍵であり数少ない成長産業の一つであること、資源～リサイクルまで日本の電池産業が一体となり目指す電池エコシステムの姿を展示、映像、トークイベント等を通じて幅広い来場者に訴求。

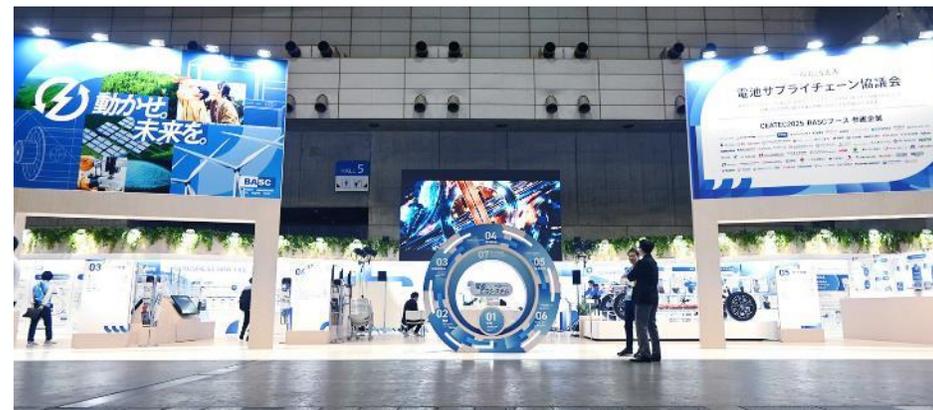
■ 開催実績

- 来場者数：17,000名（810団体中最大規模）
- メディア掲載露出：
 - テレビ：テレビ東京 WBS
 - 新聞：日刊工業新聞、日刊産業など 10社
 - Web：Yahooニュースなど 116社

■ 人材確保に向けた取組

- 会場では人材育成の取り組みの紹介
- 初日の10月14日に、BATONの発足発表会を開催。これまで産官学が連携し、高校・高専を対象とした「関西蓄電池人材育成等コンソーシアム」の取り組みを全国や大学に広げ、バッテリー人材の育成・確保を加速することを発表

■ 開催の様子



Battery Job Fair (BASC)

- 令和6年度より、蓄電池産業および各レイヤーで活躍する企業を電池を学ぶ学生に広く知ってもらうことを目的に、第65回電池討論会（国立京都国際会館において開催）の併催イベントとして、BASCとして初の就職フェアBattery Job Fairを開催。
- 令和6年度はトライアルの位置づけで13社の企業がブース出展し、約150名の学生が参加した。
- 令和7年度も電池討論会（11月18日～20日@ウインクあいち）での併催を実施した。

■ 開催実績

年度	区分	参加数
令和6年度	企業	13社
	学生	151名
令和7年度	企業	8社
	学生	155名

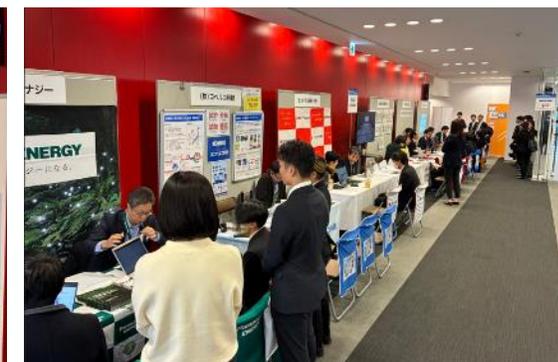
■ 参加者の声（一部）

- 学生：一つの会場で多くの企業を回れてよかった。興味のある企業に深い質問が出来た。
- 企業：ブース訪問でエントリーがあった。通常の合説に比べ、基礎知識のある学生と質疑応答が深い質問があった。

■ 令和6年度



■ 令和7年度



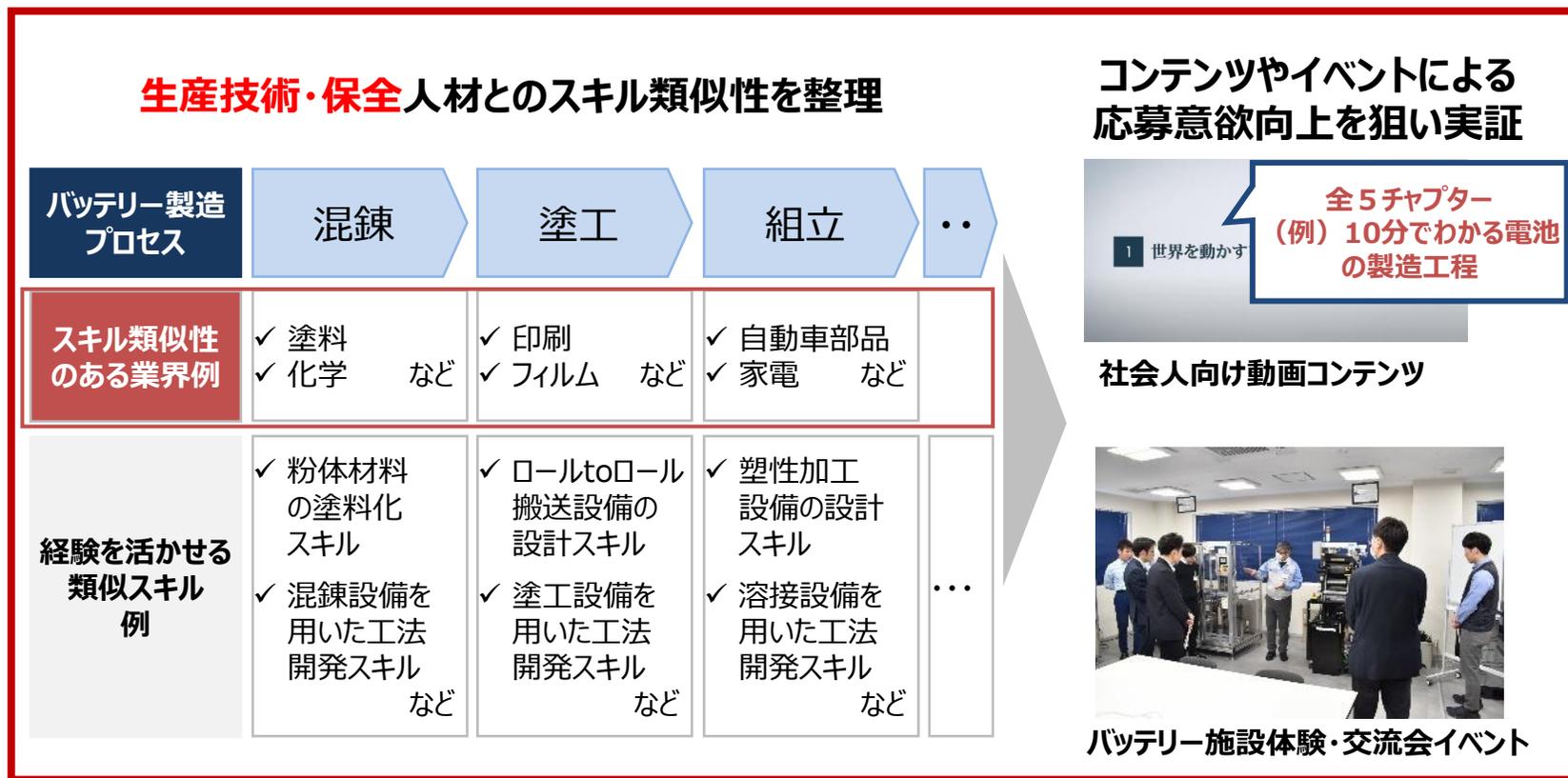
蓄電池業界で働くために必要なスキルセットの活用

- 令和6年度に蓄電池業界で働くために必要な技能、技術（スキルセット）を見える化。
- 令和7年度は、特に生産技術・保全を担う人材の優先的な確保を目指し、蓄電池製造の各工程で求められるスキル類似性を整理した。社会人向け動画コンテンツにより、学びと興味・関心につなげ、さらにイベントに参加してもらうことで応募意欲に変化があるかを実証。

<令和6年度の取組>



<令和7年度の取組>



4. 令和7年度の主な取組

- 4-1. バッテリー教育の実施校拡大
- 4-2. バッテリー教育の他地域展開への支援
- 4-3. 教材の拡充への協力
- 4-4. バッテリー産業の機運醸成
- 4-5. コンソーシアム内の情報発信機能等の拡充
ー参画機関の取組**

コンソーシアム参画機関活動の可視化（近畿経済産業局）

- 参画機関における事例や取組の可視化が十分でないことを背景に、**各機関の活動状況の可視化**を図るとともに、**関係機関の取組の発掘及び取組の活性化を促進**することを目的として実施。
- 企業事例・イベント内容・DENCHYの更新・本省の委託事業（公開可能範囲）の情報などを発信。

■ 掲載実績

- 4-6月の取組について
掲載機関数：10機関
- 7-9月の取組について
掲載機関数：12機関

■ 今後の取組

- 次年度も継続して実施予定

■ 掲載イメージ



2025年7月～9月の取り組み実績
<p>(一社) 電池工業会 (BAJ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育界向け取組 <ul style="list-style-type: none"> ・8月6,7日 「経済産業省こどもデー」出展 @経済産業省 ・10月8日 大阪府南万博・新電池館及啓発イベント
<p>(一社) 電池サプライチェーン協議会 (BASC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 産業界向け取組 <ul style="list-style-type: none"> ・7月14日 電池ビジネスセミナー (Battery Business Seminar) 開催 @愛知 ・9月27日 全国コンソーシアム準備会合 ● 教育界向けの取組 <ul style="list-style-type: none"> ・4月～7月 早稲田大学協力講座『電池工学概論』を開講 ・7月15日 ヒューマンネットワーク高専* 講演 & Meetup (2025年7月度) 電池技術の人財育成 & 中小企業のサイバーセキュリティ ・8月25日 新居浜サマースクール @新居浜高専

個社の取組総括

■ 株式会社大阪ソーダ

大学院生を対象にオープンカンパニーを開催し、電池についての座学や設備の見学、および社員との座談会を実施。令和8年度以降、継続予定。

■ 日置電機株式会社

産総研関西センターと連携し、学生向け研修プログラムを策定。令和8年度以降、電池計測講義を産総研蓄電池人材育成プログラムで実施予定。

■ 株式会社島津製作所

コベルコ科研と連携してWebinarを開催し、産総研関西センターと連携してラボ見学を実施。令和8年度以降、産総研関西センターと電池分析講習に関する連携予定。

■ 株式会社コベルコ科研

神戸高専と連携した出前授業を実施。早稲田大学「電池工学概論」の授業を担当。令和8年度以降、神戸高専との連携活動や早稲田大学での授業を継続予定。

■ 日総工産株式会社 日総EVテクニカルセンター関西

バッテリー人材リスキリングプログラム体験講座へ参加。令和8年度以降、自動車・蓄電池メーカー等と連携強化を予定。

■ 日研トータルソーシング株式会社

保全人材の育成を行い、各電池製造業へ配属を実施。令和8年度以降、引き続き研修設備導入を行い、配属者の更なるスキルアップに繋げる。

■ 技術研究組合リチウムイオン電池材料評価研究センター (LIBTEC)

組合員を対象に電池技術者教育講座の実施、産総研の大学生向け実習に協力。令和8年度以降、組合員対象の教育講座の実施と産総研関西センターと連携予定。

■ 一般財団法人 電気安全環境研究所 (JET)

産総研関西センターと連携し、試験設備を紹介するラボツアー等を実施。令和8年度以降、安全性確保に係る説明会及びラボツアー等を継続予定。

■ 大阪公立大学

パナソニック エナジーと協力して産学連携の電池人材育成プログラムを開始。令和8年度以降、継続実施。

■ 近畿大学 産業理工学部

生物環境化学科において、蓄電池もテーマに取り上げる3科目を開講。高校生向けに蓄電池教育イベントを開催。令和8年度以降、継続予定。

■ 神戸市立工業高等専門学校

専攻科の全専校の学生を対象としたPBL型授業の一環として、阪神高速技術・コベルコ科研を講師に迎え電池に関する講演を実施。令和8年度以降、継続実施予定。

■ 大阪府

カーボンニュートラル技術のビジネス支援拠点「CNビジネスベース」を開き、蓄電池を含むCN分野の支援を実施。令和8年度以降、学校関係者が集まる場で教育プログラムの周知を推進。

■ 和歌山県

和歌山県では、成長産業の1つとして「蓄電池・次世代自動車産業」を位置づけバッテリー教育等の取組を推進。令和8年度以降、県内における蓄電池産業の機運醸成を図る。

■ 徳島県

徳島県内の蓄電池関連企業と連携し、県内高校等による工場見学を実施。令和8年度以降、継続予定。

■ 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 (JEED)

ポリテクセンター、ポリテクカレッジによる在職者訓練、生産性向上支援訓練について蓄電池製造装置メーカーを対象として実施。令和8年度以降、継続予定。

■ 独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE)

大阪公立大学工業高等専門学校の学生を対象に大型蓄電池システム試験評価施設の見学を実施。蓄電池システムに携わる方等を対象に「NITE講座」を実施。令和8年度以降、継続予定。

■ 文部科学省

材料等の開発やエンジニアリング、評価・解析等を統合的に行うオールジャパンのチーム型研究開発を実施。令和8年度以降、引き続き人材育成を推進。

株式会社大阪ソーダ

■ 令和7年度までの取組結果

- 2026年2月、兵庫県尼崎市の当社研究センターにて、大学院生数名を対象にオープンカンパニーを開催予定。次世代リチウムイオン電池（LIB）用の高分子材料開発の基礎や製造・評価方法に関する座学、電池材料の混練やスラリー・電極作製、評価装置などの見学、および、社員との座談会も行い、企業での電池用素材の研究開発の魅力を伝える予定。

■ 令和8年度以降の取組予定

- 前年度同様、本取組を継続

■ コンソ活動への意気込み

- 化学メーカーとして素材の研究開発の視点で電池に興味を持ち、職業として関わりを持ってもらえるよう、電池人材の育成に貢献していく。



日置電機株式会社

■ 令和7年度までの取組結果

- 蓄電池製造における電気計測の重要性を広めることを目的に、高専・大学生を対象として産業技術総合研究所と連携し、学生向け研修プログラムを策定。

■ 令和8年度以降の取組予定

- 令和7年度で検討した電池計測講義を、産総研蓄電池人材育成プログラム・電池分析実習のアドイショナルコースとして実施予定。

■ コンソ活動への意気込み

- 蓄電池製造の電気計測ノウハウを活かし、次世代の人材育成に貢献する。



参考：<https://www.hioki.com/jp-ja/industries-solutions/battery>

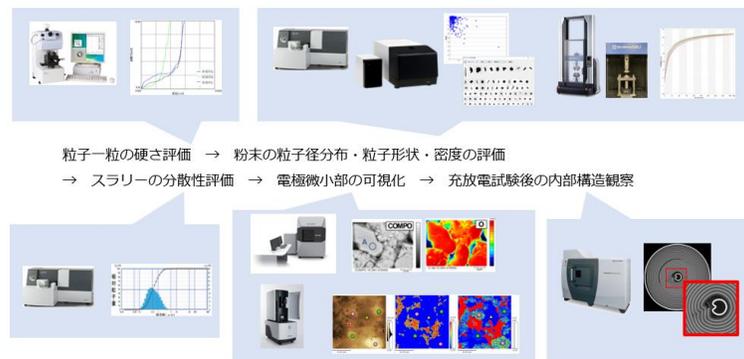
株式会社島津製作所

■ 令和7年度までの取組結果

- コベルコ科研との連携による、LiBリサイクル共催 Webinarを4月24日に開催。リチウムイオン電池リサイクルへの取組みや工程最適化に利用可能な評価技術・機器を紹介。
- 産総研関西センターが進めている蓄電池人材育成プログラムの「[A. 電池製造実習・座学](#)」の中で電池材料/電池のラボレベルでの各種評価機器を紹介するラボツアー（電池分析講習）を、9月24日に開催。産総研関西センターの主導の下、5名の参加者に対して座学および実機見学を実施。

■ 令和8年度以降の取組予定

- 引き続き、産総研関西センターと電池分析講習に関する連携活動を検討し、人材教育への寄与を目指す。



参考：<https://www.an.shimadzu.co.jp/industries/new-energy/lib/index.html>

株式会社コベルコ科研

■ 令和7年度までの取組結果

- コベルコ科研は、電池試作・分析評価・安全性試験・計算科学による蓄電池の研究開発支援を行っており、電池の特性評価や各種分析による反応・劣化解析・安全に関する知見、経験を保有している。
- 令和7年度は昨年度に引き続き神戸市立工業高等専門学校と連携し「電気自動車の安心安全を支える二次電池の評価・分析技術」と題して出前授業を実施。
- 電池サプライチェーン協議会（BASC）の早稲田大学協力講座『電池工学概論』にて「電池評価・解析」の授業を担当。



神戸高専での授業の様子

■ 令和8年度以降の取組予定

- 引き続き、神戸市立工業高等専門学校との連携活動、早稲田大学での授業を担当する予定。

■ コンソ活動への意気込み

- リチウムイオン二次電池の試作専用のドライルームを有しており、電池試作設備や分析の設備見学ツアーの実施が可能。
- 高校、高専、大学などの教育機関への講師の派遣が可能。（具体的な内容等については別途相談）

参考：<https://www.kobelcokaken.co.jp/>

日総工産株式会社 日総EVテクニカルセンター関西

■ 令和7年度までの取組結果

- 自動車メーカーとの連携（蓄電池基礎研修受託、10月）
- バッテリー人材リスキリングプログラム体験講座への参加（1月）
- 危険体感装置の拡充（溶剤爆発・静電発火、2月）
- 蓄電池メーカーとの連携（設備保全研修受託、2月）
- [参考] テクニカルセンター愛知の開設（10月）
※あいち次世代バッテリー推進コンソーシアム等との連携強化

■ 令和8年度以降の取組予定

<育成>

- 自動車・蓄電池メーカーとの連携（技術指導受託）
- 社内関連施設との連携強化（テクニカルセンター愛知 等）

<人材確保>

- 海外の大学との提携拡大によるグローバル人材の確保強化（提携国・大学の拡大）



テクニカルセンター愛知

[参考] <https://www.nisso.co.jp/news/4184/>

日研トータルソーシング株式会社

■ 令和7年度までの取組結果

- 電池製造装置の維持管理を行う為の保全人材の育成を行い各電池製造業へ配属を実施、また人材レベルの向上を目的として安全研修のVR化やメンテナンスをより実践的に行う為の研修装置（ハード、制御を学ぶ設備）を開発し導入待ちとなっている。

■ 令和8年度以降の取組予定

- 令和7年度に引き続き、研修設備の導入と配属者に対するリフレッシュ研修を行い更なるスキルアップを行う事で配属先への貢献とキャリアアップを支援。

■ コンソ活動への意気込み

- 他機関との連携により、次世代の人材育成に貢献する。

技術研究組合リチウムイオン電池材料評価研究センター (LIBTEC)

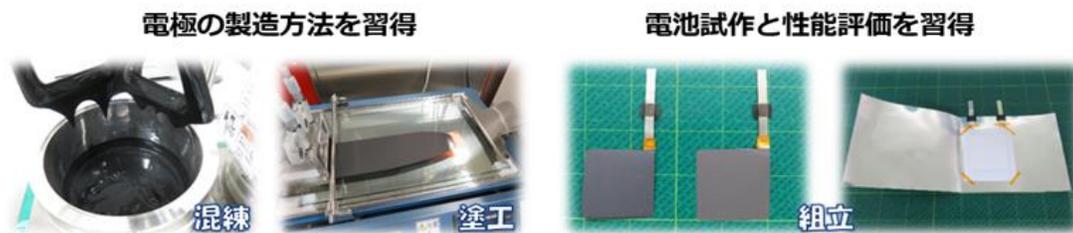
■ 令和7年度までの取組結果

- 組合員を対象とした電池技術者教育講座を実施中。
令和5年度 9社23名、令和6年度 8社13名、
令和7年度4社10名 参加。
受講生から好評を得ている。
- 産総研関西センター主催の電池製造実習に協力。
(大学12校、企業1社、公的機関1機関が参加)

■ 令和8年度以降の取組予定

- 前年度と同様に、組合員対象の教育講座の実施と、産総研の電池製造実習に協力する。
- 実習用試作設備の運転とメンテナンスを担当する予定。

参考：<https://www.libtec.or.jp/>



(LIBTEC 主催の教育講座紹介)

一般財団法人 電気安全環境研究所 (JET)

■ 令和7年度までの取組結果

- 産総研の大学生等向け「蓄電池人材育成プログラム」の受講者を対象に、リチウムイオン蓄電池の安全性確保に係る技術動向を説明するとともに、試験設備を紹介するラボツアーを実施し、安全性試験の必要性等について説明。
・12月4日開催 参加者10名

■ 令和8年度以降の取組予定

- 引き続き、産総研の「蓄電池人材育成プログラム」に参画し、安全性確保に係る説明及びラボツアー等を実施予定。

■ コンソ活動への意気込み

- 電池の安全性確保の重要性、安全試験の必要性や技術動向について、将来のエンジニアに関心を持っていただきたい。



参考：https://www.jet.or.jp/examination/lithium_ion/index.html
問い合わせ：JET 関西事業所

大阪公立大学

■ 令和7年度までの取組結果

- 令和7年4月1日、中百舌鳥キャンパス内にイノベーションアカデミー スマートエネルギー棟をオープンし、2階に全固体電池研究所の実験室を整備
- 高校生向け全固体電池研究設備見学対応 計18名
- パナソニック エナジーと協力して産学連携の電池人材育成プログラムを開始
- 全固体電池学術共同研究事業による無料セミナー「全固体電池研究セミナー」、「全固体電池国際セミナー」を計7回開催（令和7年度 参加者延べ数 1020名）
- 国際シンポジウム「OMU International Symposium on All-Solid-State Battery」を開催（日本人参加者150名）

■ 令和8年度以降の取組予定

- 産学連携の電池人材育成プログラムを代表例に、引き続き高度研究人材育成に貢献する。

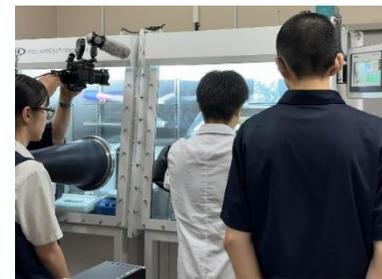
■ コンソ活動への意気込み

- 需要が高まっている全固体電池分野の最先端研究を無料セミナーの形で提供することで、既存の電池研究者に加え、学生や別の技術分野からのリスキリング人材の育成まで、幅広く貢献できるように努めた。

近畿大学 産業理工学部

■ 令和7年度までの取組結果

- （対象：高校生）地域の高校生向けに、生物環境化学科および電気電子工学科共催で、蓄電池教育イベント（1日間）の開催。本コンソーシアム教材の一部を用いた初学者向けの基礎講座、およびグローブボックスを用いたリチウムイオン電池（コイン電池）作成体験の実施。



参考:

<https://newscast.jp/news/9895540>

<https://www.kindai.ac.jp/news-pr/media/2025/06/046681.html>

- （対象：大学生）生物環境化学科では「次世代エネルギー・環境材料コース」を中心に、授業「エネルギー・環境工学（本年度より開講：2年次）」や「環境化学実験（3年次）」等において、蓄電池をテーマのひとつとして取り上げ、基礎原理、実用例、今後の課題等についての講究と、一部、グローブボックスなどを用いた実習も実施。

■ 令和8年度以降の取組予定

- 引き続き上記の取り組みを進展させ、次世代の人材育成に貢献する。

神戸市立工業高等専門学校

■ 令和7年度までの取組結果

- 神戸高専専攻科では、全専攻（機械、電気電子、応用化学、都市）の学生を対象としたPBL（課題解決）型授業を実施。
- 今年度は連携企業2社(阪神高速技術(株)、(株)コベルコ科研 技術本部 EV・電池ソリューションセンター EV・電池解析技術室)から課題・技術提供、出前授業を受けた。
- コベルコ科研の講演のテーマは「電気自動車の安心安全を支える二次電池の評価・分析技術」で、電池の仕組み、劣化を学ぶ機会となった。



成果発表会にて自作のデバイスを説明する様子

■ 令和8年度以降の取組予定

- 令和7年度に引き続き、コベルコ科研 技術本部の協力を得て今年度と同様の取り組みを実施予定。
- 令和8年からは上記に加え、本科1年生（全学科の学生）を対象に、防災・エネルギー・環境をテーマにした授業「神戸学概論」を立ち上げ。
- 授業はオムニバス形式で、神戸高専教員のほか、自治体、民間企業（うち1社はコベルコ科研、バッテリー関連の講義）からも講師派遣の予定。

大阪府

■ 令和7年度までの取組結果

- 工業高校や技専校を中心に教育プログラムの教材を活用したバッテリー教育を実施している。昨年度まで、南大阪高等職業技術専門学校、東淀工業高等学校、大阪公立大学工業高等専門学校の3校で教育プログラムを実施してきたところ、学校関係者が集まる場での周知の機会を設けることで、今年度は新たに四條畷高等学校、生野工業高等学校、関西大倉高等学校の3校でも導入され、取組を拡大している。
- また、今年度7月にカーボンニュートラル技術に特化してビジネス化に向けた支援を行う全国初の拠点機能として、「CNビジネスベース」を開設。蓄電池を含むCN分野の支援を実施。



CNビジネスベースでのフォーラムの様子

■ 令和8年度以降の取組予定

- 引き続き、学校関係者が集まる場での教育プログラムの周知の機会を設けるほか、生徒参加型イベントでのPR連携などを検討し、さらなる実施校の拡大を図る。

和歌山県

■ 令和7年度までの取組結果

- ・ 県では、成長産業の一つとして「蓄電池・次世代自動車産業」を位置づけバッテリー教育をはじめとする取組を推進。
- ・ 工業系の学科を有する県立高校すべてが初年度よりバッテリー教育プログラム実施。
- ・ 紀北工業高等学校において、令和7年10月にパナソニックエナジー株式会社と連携した蓄電池製造実習を実施。



紀北工業高等学校における実習風景

■ 令和8年度以降の取組予定

- ・ 各学校の実情に応じたプログラム実践のための連携。
- ・ 県内における蓄電池産業の機運醸成。

■ コンソ活動への意気込み

- ・ 引き続きのバッテリー教育プログラム実践の推進と蓄電池関連産業への新規参入等の機運醸成を図る。

徳島県

■ 令和7年度までの取組結果

- ・ 県立高校6校、高等教育機関3校でバッテリー教育プログラムを実施。
- ・ 県内蓄電池関連企業と連携し、県内高校等による工場見学を実施。
- ・ 令和7年4月より、徳島大学の教養課程の前期授業にてバッテリーに関する講座がカリキュラム化。

■ 令和8年度以降の取組予定

- ・ 引き続き、県内教育機関におけるバッテリー教育の実施校拡大を図る。
- ・ バッテリー教育に関する学習コンテンツを新たに作成し、教育内容を充実させる。



とくしまバッテリーバレイ構想

TOKUSHIMA BATTERY VALLEY INITIATIVE

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構（JEED）

■令和7年度までの取組結果

■令和8年度以降の取組予定

- 「バッテリー人材育成の方向性2025」に基づき、JEEDが運営する公共職業能力開発施設（ポリテクセンター、ポリテクカレッジ）が提供する在職者訓練、生産性向上支援訓練を蓄電池製造装置メーカーを対象に以下のとおり実施した。（令和8年度以降も引き続き実施。）

在：（令和6年度） 20社、370コース、延べ1,562名
 （令和7年度12月末）16社、295コース、延べ1,451名
 生：（令和6年度） 7社、23コース、延べ120名
 （令和7年度12月末）7社、24コース、延べ80名

■コンソ活動への意気込み

- 蓄電池製造装置メーカー等がバッテリー人材を育成・確保できるよう、引き続き事業主の人材育成・人材確保を支援してまいりたい。

参考URL：<https://www.jeed.go.jp/js/station/battery.html>

独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）

■令和7年度までの取組結果

- 8/18（月）に大阪公立大学工業高等専門学校を対象に、NITE保有の大型蓄電池システム試験評価施設（NLAB）の見学会を実施した。
- 9/2（火）に蓄電池システムに携わる方等を対象（公募）として、対面での蓄電池基礎講座やNLAB施設見学会「NITE講座」を実施した。
- 12/4（木）に産業技術総合研究所の教育プログラムの一環として、大学生や企業の技術者を対象に、NLABの見学会を実施した。
- 高校生や大学生、企業の技術者などの幅広い世代に対して、「蓄電池に関する安全性評価」への理解促進を図る機会となった。

■令和8年度以降の取組予定

- 令和7年度に引き続き、教育機関や企業等からの要望に応じて、NLAB見学会やNITE講座を実施する予定。

■コンソ活動への意気込み

- NLABの見学を通じて、特に“安全性”という部分の理解促進を図り、次世代の人材育成に貢献する。

文部科学省

■ 令和7年度までの取組結果

- 革新的GX技術創出事業（GteX）において、2050年カーボンニュートラル等への実現を目指し、材料等の開発やエンジニアリング、評価・解析等を統合的に行うオールジャパンのチーム型研究開発を実施。
- 多数の優秀な研究者を産業界へ輩出できるよう、積極的に学生や若手研究者の参画を促し、学生については約380名が参画。また、海外研究室への若手研究者派遣も実施。

■ 令和8年度以降の取組予定

- 若手研究者や学生の全国ネットワークの形成を通して、蓄電池への理解及び技術力の向上を図るとともに、海外の研究チームとの連携・人材交流により国際的な視野に立った研究活動を推奨することなどにより、引き続き、我が国の産業界やアカデミアをけん引する人材の育成を強く推進。



GteX
革新的GX技術創出事業

参考URL : <https://www.jst.go.jp/gtex/>